

## 成果の説明書

(氏名) 阿部圭司	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>■研究活動</p> <p>(1)研究論文</p> <p>(a) 共著で大学生の金融リテラシーに関するアンケート調査を実施，これに基づく論文を執筆．2本の論文を出すことができた．2020年度も同じテーマで調査，研究活動を継続する予定．</p> <p>阿部圭司・小澤伸雄・木下康彦，2019年，「高崎経済大学学生の金融リテラシーに関する研究 ―金融リテラシー調査(2016)に準じた調査結果―」，『高崎経済大学論集』，Vol.62，No.2，pp.1-18.</p> <p>阿部圭司・小澤伸雄・木下康彦，2020年，「大学生に対する金融リテラシーに関する研究 ―新入生と在学生との比較を中心として―」，『高崎経済大学論集』，Vol.62，No.3&amp;4，pp.1-21.</p> <p>(b)高崎市の製造業に関する地域科学研究所プロジェクトに参加し，市内の製造業1社を担当することになった．2019年5月に市内にある担当企業へ，また9月にホーチミン市（ベトナム）にある関連会社2社を訪問し，聞き取り調査を行った．中間報告として2020年2月に学内で開催された報告会で報告を行った．</p> <p>(c)高崎市の中心市街地活性化を研究対象とした地域科学研究所プロジェクトに参加することとなり，高崎市の市街地人口推移に関するデータの収集とデータベース(DB)化を始めた．</p> <p>(2)書籍</p> <p>共著で金融リテラシーに関する書籍を執筆，2019年秋に刊行された．阿部はまえがきと1，3，4，5章を担当．</p> <p>阿部圭司・小澤伸雄・木下康彦，2019年，「ファイナンシャル・リテラシー第3版」，同友館</p> <p>(3)外部研究機関との連携</p> <p>2019年度，群馬経済研究所と連携した研究会を2回開催した．内容は社会調査法について．講師には本学地域政策学部の田戸岡准教授に依頼した．</p> <p>■教育活動</p> <p>ゼミナールにて，日経 STOCK リーグへ参加した．2019年度は3チームが予選を通過，1チームが入賞を果たした．また，高大連携事業の一環として，高崎経済大学附属高校2年生とのコラボゼミを1年間実施し，4チームが予選を通過，その後1チームが入賞，という結果となった．</p> <p>■その他</p> <p>【学内】研究科長（2017/4～）として大学院運営（教務，入試等）に携わった．</p> <p>【学外】高崎市で委員会の委員を担当</p>	

## 2 その他の事項

なし

## 3 次年度以降の計画・抱負

■研究 金融リテラシー知識に関する研究では、分析手法も見直し、論文を1件執筆中である。2020年度も被験者、設問内容を変えてアンケート調査を実施予定である。また、行動経済学の見地から、消費者（投資家）の行動と金融リテラシーの水準との関連についても関心を持っている。2020年度は基礎的な知識、分析手法の確認がメインになると思うが、徐々に進めてゆく予定である。

高崎市の製造業に関する研究では、担当している企業へ追加の聞き取り調査を行った後、最終報告書の執筆を行う予定である。

中心市街地活性化の研究については、2020年3月に国内先行事例の調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染の広がりから延期となった。2020年度に日程を調整し、調査を実施したい。また高崎市他複数の都市について中心市街地人口のDB化を完成させ、1970年代から今日までの市街地拡大及び中心市街地の空洞化、さらに中心市街地人口の回復傾向について検証したい。

群馬経済研究所との研究会では分析手法をテーマとした研究会実施の他、同研究所のネットワークを活用し、県内企業・従業員を対象とした調査に取り組んでみたい。

■教育 2019年度は大教室での講義とならなかったため、教育上の特別の取り組みは行っていない。2020年度は再び大教室講義が予定されているので、リアルタイムアンケート、クリッカーアプリなどを利用した、学生の参加意識を向上させる試みに取り組んでみたい。